

編集後記

最近協議会で問題となるのは、協議会活動を消費行動とみなして、会費を支払うことで義務を果たしたとみなされる向きが多くなっていると感じられることである。知っておいていただきたいのは、運営している人たちも会費を等しく払っていて、一銭も受け取っていないという当たり前の事実である。

そもそも図書館協議会は、みんなでお金と労力を出し合い、医療情報にかかわる知識の取得や資料の相互利用、図書館員の研鑽などを行って、各図書館や図書館員を充実させ、それが各病院ひいては医療の充実につながると信じて始まったものである。しかしながら、そういった図書館協議会活動は、図書館員が当該業務以外の仕事をしたり、病院の外へ出て行ったりすることを必要とし、図書館運営における人的・金銭的負担増など、一見病院の利益と相反するよう見えるため、協議会に入って恩恵は受けるけれど、協力はできないと断る病院が増えてきた。一部の病院図書館員たちだけが負担を背負うも、そういった人たちの絶対数も減ってきており、結局協議会の運営そのものがたちゆかなくなってきた。

医療情報というものが本当に病院に不可欠だと思うのであれば、病院として努力していただくべきことがあるものとお考えいただきたい。

(増田 徹)

会誌編集部員

部 長：井 上 智奈美（三菱京都病院）
 部 員：寺 澤 裕 子（関西労災病院）
 前 垣 志 穂（公立八鹿病院）
 増 田 徹（藍野大学）
 松 尾 知 香（石切生喜病院）

病院図書館 第32巻 第3号

季刊

2013年8月10日 発行

定 価 ￥1,500（年間購読料 ￥6,000） 送料込

発行所 近畿病院図書室協議会

〒567-0018 大阪府茨木市太田3-9-25 藍野大学中央図書館 気付

TEL (072) 625-6369 FAX (072) 627-3355

印刷所 明文舎印刷株式会社

〒601-8316 京都市南区吉祥院池ノ内町10

TEL (075) 681-2741 FAX (075) 681-2742
